



国際観光マネージャー
金相延

今こそ、あたたかい地域づくりを

報道と人権

「ねえ、おかしくて思わなかった？ 県内の温泉施設を利用したコロナ感染者の方が亡くなられた時、その方が生活保護を受けていたとか住所不特定か報道されていただけ、個人情報をごこまで出したのは人権侵害で思わなかったね？」と言われて、はつとした。毎日のコロナ関連の情報を鵜呑みにしていたのだ。

ウィルスを感染拡大させないという思いで、クラスター情報に日時や地域・場所などが公表されてきたが、生活情報については公表することが必要であったらどうか。報道のあり方を前述の本市在住の方は訴えていき、その後、マスコミでは検討された。報道が個人の尊厳を遵守しているか注視することが大切だと教えられた。

誹謗中傷、国籍を越えて

県内の感染者が周りの誹謗中傷のために、一家で転居された。住まいも仕事も奪われたのだ。ある市では感染防止のために市が備蓄していたマスクの配布対象から朝鮮幼稚園を外した

地域人権教育指導員 稲田京子

り、コロナ禍で困窮する学生支援のための「学生支援緊急給付金」対象から朝鮮大学が外されたりした。

一方、滋賀県知事は地元の朝鮮学校へ激励のメッセージを添えてマスクと食糧を贈呈した。すべての人の人権を守ることが、地域全体の健康や生活を守り、安心・安全な地域づくりになる

差別や偏見を越えて

熊本市で自身の感染後、店主が店名を公表した記事を読んだ。客が来なくなるかもしれないという不安の中、周りの差別や偏見に対する不安を払拭する家族の支えと、顧客に感染を広げたくないという強い思いによって葛藤を乗り越えていかれた。

2割の人が差別的な反応であったが、8割の人は、「よく公表してくれた」「再開したら絶対行くよ」という励ましの声だった。それまで以上に消毒に費用をつぎ込んで、今に至っておられる。再開後、苦情は1件もないそうである。店主の勇気ある行動を尊敬すると

もに、偏見・差別をする側になりたくないと感じた。

排除を越えて

先日、菊池恵楓園入所者の方が電話で、「コロナ禍において、恵楓園で学んできたことを思い出してほしい」と言われた。強制隔離政策の中で、ハンセン病にかかった人の家族までも、予断や偏見で忌避・排除してきた過ちを二度と繰り返してはならない。自分がコロナに感染したくないという思いや病気に対する不安、恐怖は誰しもあるだろう。

しかし、自分や家族が感染したらそれだけで苦しいのに、自分の情報が必要以上に流され、自分や家族が地域から排除されたら、こんな二次的被害には耐えられないはずだ。コロナ禍でこれまで心の底にあったさまざまな差別の意識が見え隠れしている。

一方、これまで培ってきた人権意識・判断力・勇気・仲間とのつながりも見えている。相手の命や人としての尊厳を守り、誰一人排除しない、あたたかい地域づくりを共に推し進めよう。

今年5月、新型コロナウイルスのニュースで世界中が大変な中、韓国のある有名新聞に80歳で大学生になったおばあさんの記事が掲載された。最高齢の新入生ではないかと思う。

息子が80歳のプレゼントに何が欲しいか尋ねたところ、「学ばためにインターネットも使いたいし、課題も提出しなければならぬので、パソコンが1台ほしい」と言ったという。コンピュータも熱心に覚え、中間試験も受けた。成績も若い同級生と比べてそれほど悪くなかった。

この老婦人はがんで夫を亡くしたが、夫の闘病生活を支えながら療養保護士という制度を知った。夫が亡くなり、葬儀や後片付けを終えて、療養保護士の試験勉強を始めたそう。夫と死別した寂しさを勉強で克服したのだ。74歳で試験に合格し、健康が許す限り仕事を続けたいという思いで働いたという。

その後、高齢者の健康と福祉のためのさまざまな制度を知り、専門的な勉強をしたと、今年大学に入学した。

この記事を読んで、生きること自体が絶えず学ぶ事ではないかと思った。特に今のように変化の速い情報化社会では、常に新しいことを学び、それに慣れなければならぬ。スマートフォンを使うためにも新機能が追加されるたびに学ぶ必要がある。

最近ではフィジカル・ディスタンスング(身体的距離の確保)が一般的になると、自宅でもオンラインを利用し、さまざまな講座を受講できるサイトが増えている。報道によると、世界的な無料教育サイトは昨年より約7倍も利用者が増加したという。人工知能やプログラミング、経営

外国語、宗教、趣味など2千を超える講座を4〜6週間、長い講座でも4〜6カ月で学べる。年を取るほど変化を嫌い不安になるが、80歳の新入生の学び続ける姿勢から、学び喜びや壁を越える挑戦などを再認識させられた。逆境をむしろ学びで克服し、知識とスキルを蓄え、仕事に生かし、社会に貢献する人間のしなやかさ、たくましさも美しく価値あるということ意識したい。

◆シリーズ◆ 菊池一族の遺産

問い合わせ先 菊池一族プロモーション室 ☎0968(25)7267

折れず曲がらず同田貫

延寿から同田貫へ

延寿一族の晩年は、最盛期同様、菊池一族と運命を共にする形となりました。室町時代の終わりごろ、菊池一族による領有が終わり、菊池が他家に侵攻されると、延寿村も事実上の崩壊を迎えたのです。

刀工たちは、百姓に転化する者、農耕具を作って生活を繋ぐ者、条件の良い場所へ移転する者などに分かれて生き延びてい

きました。その中に、玉名に移り住んだ人々がいました。同田貫清國、正國(小山左馬介(※)、上野介)兄弟です。

延寿屋敷があったとされる菊池市の稗方に「ずだぬき(同田貫)」という地名があり、これを刀の銘に刻んで作刀していたようですが、それは彼らが菊池を去つてからも同様に続けられました。この兄弟にとつての大きな転機の一つに、当時の肥後大名・加藤清正との出会いが挙げられます。実戦志向の強靱さを

高く評価した清正は、熊本城の常備刀として大量に同田貫刀を作らせました。清國・正國の名前の由来も、清正が自分の名前を兄弟に一字ずつ与えたからだと伝わっています。

菊池一族を支え、栄枯盛衰をともにした延寿鍛冶の誇りと技術が同田貫鍛冶に受け継がれ、再び時の為政者に見初められることで栄光を取り戻したのです。小山家は、菊池一族の七代隆定の後裔とも伝わっており、今は亡き先祖への思いにもひとしおのものがあつたことでしょう。

菊池一族の遺志を継ぎ、清正が惚れ込んだ同田貫刀は明治時代に「折れず曲がらず同田貫」とうたわれ、鉄の兜をも断ち斬る刀として一躍名をはせることになりました。そのイメージは現在に至るまでさまざまな形で受け継がれ、『剛刀』として広く世に認められています。

◆絵画連作◆ 幻の都 城下町菊池

絵・文／橋本以蔵

第一章 武光公の築いた絢爛たる都



其の15 台台地の凱旋

太古の昔、菊鹿盆地は巨大な湖だったようです。その時期、七城あたりは水の底、台台地は湖水の岸辺でした。水が引いた後も足場の悪い七城は行軍に適しておらず、武光公は凱旋の時台台地を通して帰ってきたそうです。これは敵には気付かれにくいルートで、菊池の軍勢は自在に地の利を使いこなしていました。



刀 肥州菊池住同田貫正國
撮影：井上 啓 ディレクション：太田光暉

※後の木下左馬介

わいふ一番館

問い合わせ先 わいふ一番館 ☎0968(24)6630

万葉集古筆展 期間：9月1日(火)～13日(日)
日本人の心に響く和歌の魅力をかな文字で表現しました。
菊池の写真愛好家四人展 期間：9月15日(火)～10月4日(日)
今回で5回目を迎える写真展。各々が力作を展示します。

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)

菊池観光協会

問い合わせ先 菊池観光協会 ☎0968(25)0513

市内在住・在勤者限定「地元応援割!モニターツアー」
地元の温泉宿にお得に泊まりませんか。1泊大人5千円、小学生以下2,500円で宿泊できます(予算額に達し次第終了)。詳しくは菊池観光協会ホームページをご覧ください。

開館時間 午前9時～午後6時
休館日 第4火曜日(祝日の場合は翌週火曜日)

◆シリーズ◆ 交流の絆⑥

申し込み・問い合わせ先 市長公室 ☎0968(25)7252

友好都市・韓国 忠清北道 清州市
清州市は韓国国土のほぼ中央部に位置し、ソウルから車で約2時間半の場所にあります。2014年に旧清原郡が周辺自治体と合併し清州市となり、人口80万人を超える主要都市となりました。

韓国との友好都市を望んでいた旧菊池市は、産業形態や地理的条件がよく似ている旧清原郡と、2005(平成17)年2月にソウル特別市で友好交流都市を締結。合併後の2007(平成19)年に、改めて友好都市の締結を調印しました。3月には熊日菊池桜マラソン大会へ参加するため、清州市から交流団が来菊。菊池市からも、清州市のマラソン大会に合わせて交流団を派遣しています。



第63回熊日菊池桜マラソン大会へ参加し、挨拶される清州市の皆さん